

第2学年A組「特別の教科 道徳」学習指導案

指導者 佐藤 雅朗

- 1 主題名 思いやりを形に 【B－(6) 思いやり・感謝】
教材名 「譲る気持ちはあったのに・・・」
(出典：中学道徳2 とびだそう未来へ 教育出版)
- 2 ねらい 登場人物の言動について考えたり役割演技をしたりすることを通して、温かい社会を形成するための一員として自分にできることを考え、他者をいたわる実践意欲と態度を育てる。

3 主題設定の理由

(1) 主題について

「思いやりの心」は、自分が他者に能動的に接するときに必要な心の在り方である。他者の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。それはまた、黙って温かく見守るといった表に現れない場合もある。

しかし、思いやりの大切さに気付いているだけで、表に現さなければ、他者に伝わることはない。自分も他者も、共にかげがえのない存在であることをしっかり自覚させ、思いやりの気持ちを言動にして素直に伝えようとする心が自己と他者の心の絆を強くし、温かい社会を形成することにもつながることに気付かせたいと考え、本主題を設定した。

(2) 生徒について (男子11名、女子17名、計28名)

陸上記録会や合唱コンクールなどの学校行事を始め、様々な活動に一生懸命に取り組むことができる生徒が多い。班活動でも、話し合ったり互いに助け合ったりする場面がよく見られる。アンケートによると、学校生活を楽しいと感じている生徒は90%以上で、学級に対する満足度も100%であった。

また、「自分は人の役に立っていると思いますか」の質問には、64%の生徒が「思う」と答えており、主な理由として、「人や友達を助けてあげたことがあるから」、「自分の役割をしっかり果たしているから」と述べている。一方「思わない」と答えた生徒は、その主な理由として「相手にとって役に立っているかわからない」、「迷惑になっていないか心配だから」、「進んでできていない」と述べている。

このように、思いやりが大切だと分かってはいるものの言葉や行動としてうまく表現できない生徒がいることから、日頃から勇気付けたり励ましたりしながら、実践する態度と意欲を育てる指導を充実させていくことが必要であると考えた。

(3) 教材について

本教材は、「電車で席を譲る行為」に関する二つの場面が示されている。同じ行為でありながら対照的な二人の人物が描かれており、それらを比較しながら、ねらう道徳的価値についての考えを深めていくことができる教材である。

二つのエピソードの場面からは、共に「思いやり」の心を感じることができるものの、行動がともなわないと相手に伝わらないということも学ぶことができる。さらに、役割演技をさせることで、思いやりを言動にする難しさや、言動に表した場面を目の当たりにしたときのすがすがしさを体感させ、望ましい道徳的価値の実現について話し合いながら、それを自分の生活にどう生かすかを考えさせることができる教材である。

4 指導にあたって

(1) 生徒が自分との関わりで考えるために

＜日常の自分を想起させる導入と、教材提示の工夫＞

- ・導入でテーマ発問を投げかけ、ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
- ・資料を読んだ生徒の内面に生まれた問いを表現させ、生徒にとって現実的な問題として捉えさせたい。

(2) 生徒が道徳的価値を理解するために

＜効果的な指導法の工夫＞

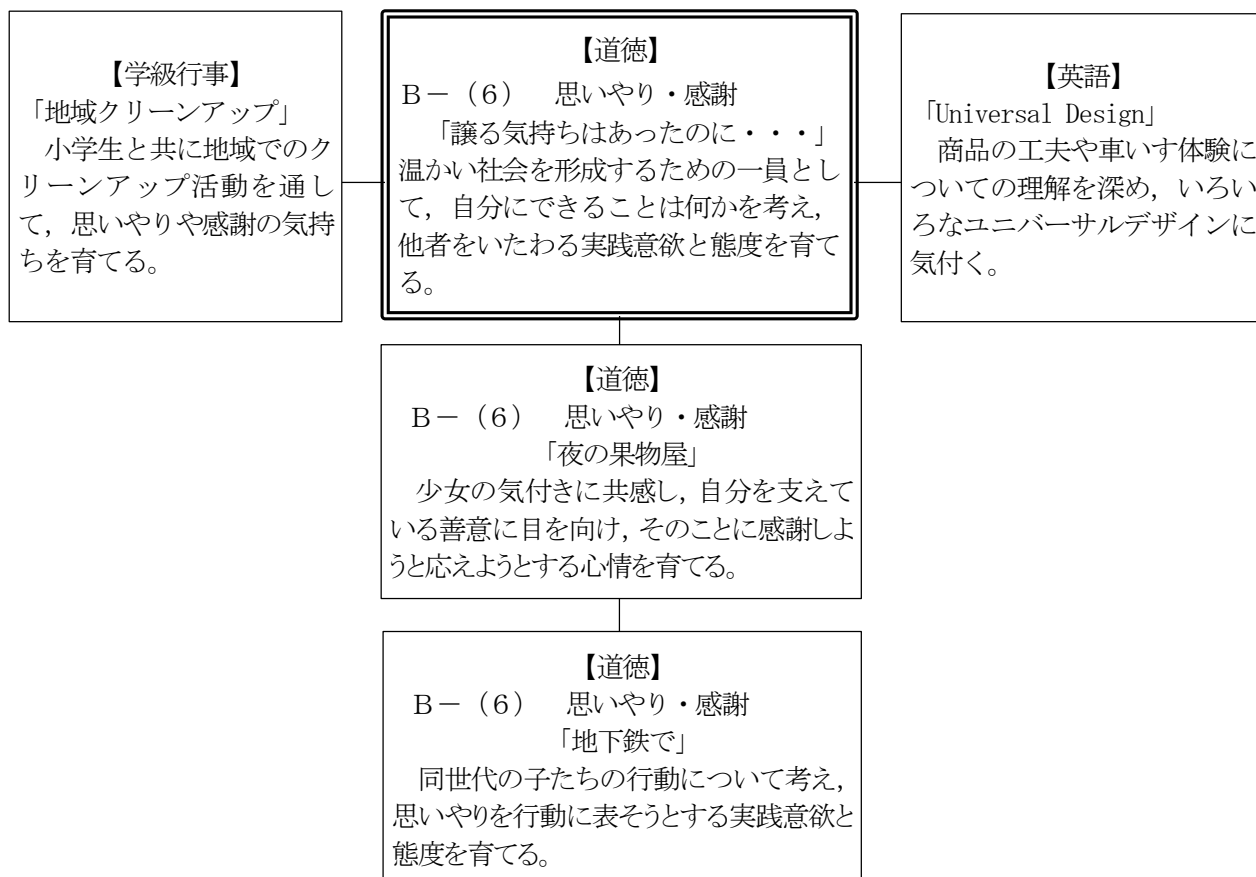
- ・ワークシートに自分の考えを書くことによって、道徳的価値を自分との関わりで捉えさせる。
- ・自分の考えたことと役割演技で演じたその場に応じた身のこなしや発言・表情と比較したり、気持ちの変化を体感させることで、道徳的価値に気付くようにする。

(3) 人間としての生き方について考えを深めるために

＜実践への意欲付けの工夫＞

- ・本時の学びをワークシートに記入させることによって、自分自身を振り返り、自分の個性を伸ばすために大切なことを生活に生かしていこうとする道徳的実践意欲を高めさせる。
- ・学習や部活動、学校行事などの折りに、この授業の学びを思い起こせるように、振り返りシートを教室に掲示する。

5 他の教育活動との関連



6 学習指導過程

過程時間	学習活動	主な発問と 予想される生徒の発言	指導上の留意点
導入 5分	1 本時のテーマを聞く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 思いを形にすること </div> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを形にすることは大切だ。 ・気持ちは形にならない。目に見えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にこの発問をテーマとして、授業を進め、授業中このテーマを意識することを伝える。 ・展開に時間を確保するためにごく簡単に触れる。
展開 前段 3分	2 思いを形にするときに大切なことを考える。 (1) 「通学電車の中で」を読み、話し合う (2) 「近頃の若者も捨てたもんじゃない」を読み、話し合う 3 役割演技で、思いを形にしたときの気持ちを体感する。 (1) 台本の台詞を考える。 (2) 役割演技をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 「通学電車の中」で問題だと思うことや気になることは何ですか？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・真は、迷っているだけで席を譲っていない。 ・優先席に学生や会社員など若い男の人が座っている。 ・妊婦さんに誰も席を譲ろうとしない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 真が声をかけることができなかったのはどうしてだろう？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・勇気がなかった。 ・周りの人にいい人ぶってと思われるのが心配で。 ・妊婦さんに断れるとカッコ悪いと思ったから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 若者が席を譲ったときみんながここにこしていたのはどうしてだろう？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の行動が思いやりにあふれていたから。 ・周りの人も見ていて心地よかったから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 大きな荷物を持っている人（役①）に席を譲る（役②）とき、どう声をかけますか？ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 実際に演じてみて、演じている様子を見て、どう思いましたか？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・人前で席を譲るのは恥ずかしい ・やってみると意外と簡単だ。 ・自然にできた。（できていた。） ・少し照れていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の内面に生まれた問いを表現させることで、生徒の課題意識を高めたい。 ・自分と重ねて考えられるように補助的な発問を入れる。 ・吹き出しのシートを使い、全員が台詞を考えられるようにする。 ・実際に役割演技を行うのは4～6名とし、他の生徒には、演者の身のこなしや表情から、思いを形にしたときの気持ちを感じとるようにさせる。
後段 10分	4 「行為の意味」を読み、テーマについて考えを深める。	<div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 思いを形にする上で、大切にしたいことは何ですか？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のできることをやってみる。 ・できるか不安だが、勇気を出してやってみる。 ・絶対やってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者には、根拠となることもはっきり答えさせたい。場合によっては、補助的な発問を加えていく。 ・授業全体を通して考えたことも、意図的に発表させたい。
終末 3分	4 教師の説話を聞く。		

目指す生徒の姿

- ・登場人物の言動を考えたり役割演技をしたりすることで、思いを行動に表すことの大切さに気付いている。
- ・温かい社会を形成するための一員として、他者に対して自分ができることは何かを考えている。

第3学年B組 道徳科学習指導案

指導者 佐藤 智仁

1 主題名 自分らしく生きる 【A－(3) 向上心, 個性の伸長】

教材名 「ひび割れ壺」(出典: 中学道徳3 とびだそう未来へ 教育出版)

2 ねらい ひび割れ壺の悩みや水くみ人の言葉を考えることを通して, 自分の個性を見つめ直し, 短所を含めた個性を肯定的に捉えることで, よりよく生きようとする態度を育てる。

3 主題設定の理由

(1) 主題について

内容項目A－(3)には,「自己を見つめ, 自己の向上を図るとともに, 個性を伸ばして充実した生き方を追求すること」とある。

個性はその人固有の持ち味とも呼べるものであり,「個性を伸ばす」とは, 固有の持ち味をよりよい方向へ伸ばし, より輝かせることである。自分自身で嫌だと思っているところも, 見方を変えることで, 輝く個性になり得るのである。そこで, 自分の個性を見つめ直し, 短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえつつ, 自分自身を肯定的に捉えることでよりよく生きる態度を育みたいと考え, 本主題を設定した。

(2) 生徒について(男子12名, 女子13名, 計25名)

素直でまじめな生徒が多く, 学校のリーダーとして意欲的に学校行事に取り組んでいる。級友の考えをよく聞きながら考えようとする生徒が多いが, 自主的に発表し自己表現しようとする生徒は少ない。7月に行った学習に関するアンケートでは,「自分にはよいところがある」という質問に対して, 肯定的な回答をした生徒が60%で, 同学年の他のクラスに比べて低い。謙虚に自分を見つめてはいるが, 他者と比べることで自分に対して自信がもてない生徒がいるからであると考えられる。

これまでの道徳や学活を通して, 個性が自分らしさであるという理解があり, 自分の長所や短所を自己の能力・適性, 興味・関心, 性格等を踏まえたうで捉えている。短所についてはすぐに数多く見つかるが長所はあまり見つけられないという生徒や自分の短所を劣等感として思い悩んでいる生徒がいるなど, 短所を否定的に捉える生徒はいるが, 単に欠点としてだけではない異なる見方をすることで, 自分自身の個性について振り返るきっかけにしたい。また, 自己を肯定的に捉えることで, さらに自分らしさを発揮しよりよく生きようとする態度につながっていくと考える。

(3) 教材について

インドの民話として広まっていったものを翻訳した物語である。ひび割れ壺の, 水を漏らしてしまうという短所が, 水くみ人が種をまいたことで, 花を咲かせるための水になるという長所でもあることに気付かせるという内容の教材である。

生徒たちは自分自身で嫌だと思っている短所をもっているが, 見方を変えることで長所になり

得る可能性があることを自分自身に照らし合わせ考えることができる。さらに自己を肯定的に捉えることで、短所に対するマイナスのイメージが薄まったり、短所はどうしようもないので逆に長所を伸ばそうなどと考えたりしながら、よりよく生きる態度を育むことができる教材であると考えられる。

4 指導にあたって

(1) 生徒が自分との関わりで考えるために

＜日常の自分を想起させる導入と、教材提示の工夫＞

- ・自分の長所と短所を紙に書かせることで、自分自身との関わりの中で考えさせるようにする。
- ・自分を取り上げた短所の理由を聞くことで、ねらいとする道徳的価値へ方向付けをする。

(2) 生徒が道徳的価値を理解するために

＜効果的な指導法の工夫＞

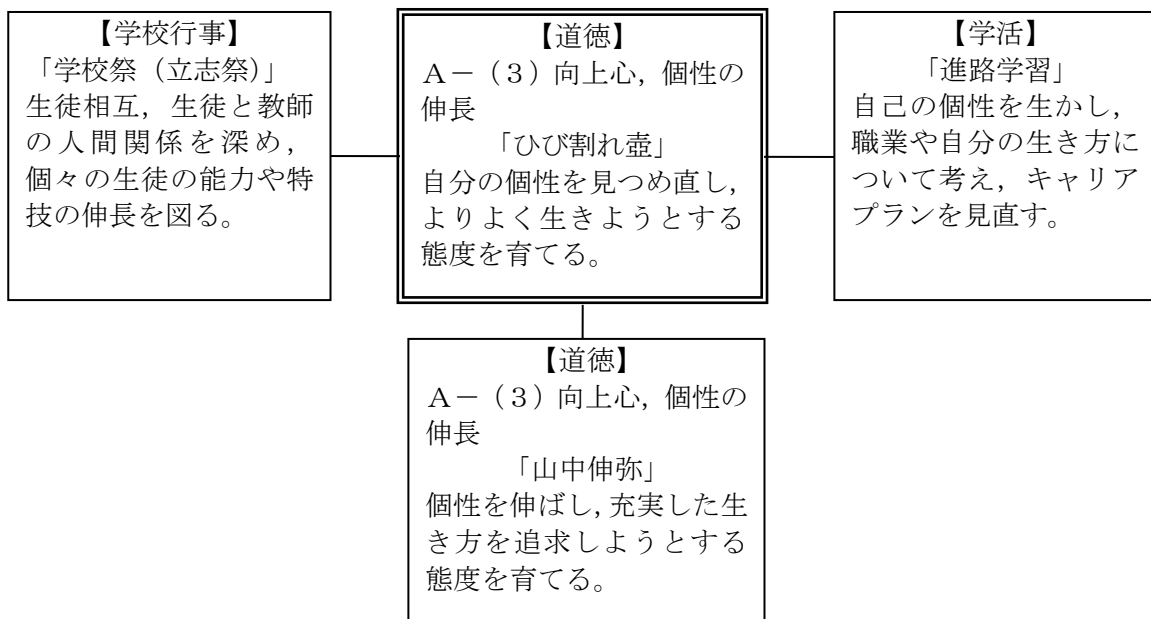
- ・「2年」という時間の長さをイメージさせひび割れ壺の気持ちに寄り添って考えさせることで、複雑なひび割れ壺の心情に迫っていく。
- ・必要に応じて文章にある「恥ずかしい」「すまないと思っている」「あなたがどんなに努力しても、その努力が報われない」「それがつらい」などの文言を取り上げ、短所に悩むひび割れ壺の気持ちを想像できるよう発問する。
- ・ひび割れ壺が過ごした2年間と、水くみ人が花を育てた2年間の対比が分かるように、板書を工夫する。

(3) 人間としての生き方について考えを深めるために

＜実践への意欲付けの工夫＞

- ・自分の個性についての振り返りを書かせることによって、短所も自分の特徴の一側面で長所にもなり得ることを踏まえつつ、自己理解を深めながらよりよく生きていこうとする意欲付けを図る。

5 他の教育活動との関連



6 学習指導過程

過程時間	学習活動	主な発問と 予想される生徒の発言	指導上の留意点
導入 5分	1 自分の長所と短所について取り上げる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> あなたの長所と短所は何ですか。 また、その理由は何ですか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・運動が得意，スポーツが好きだから。 ・すぐあきらめる，忍耐力不足。 ・ネガティブ，すぐ気にしてしまう。 ・人見知り，人前が苦手。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所と短所を紙に書かせたものを事前に準備させ，その理由を話させる。 ・自分が取り上げた短所の理由を聞くことで，ねらいとする道徳的価値へ方向付ける。
展開 前段 35分	2 教材を読んで話し合う。 (1) ひび割れ壺が水くみ人に話しかけたときの気持ちと，水くみ人が2年間どのように過ごしていたのか考える。 (2) 最後に水くみ人の言葉について考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> なぜ「2年」も経ってから，ひび割れ壺は水くみ人に話しかけたのだろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・役に立たないので捨てられる。 ・壺を作った人に対する怒りから。 ・申し訳なくて言い出せなかった。 ・耐えきれなくなって打ち明けた。 ・それまでは，ひび割れ壺なりに2年間努力していたから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> どんな思いで，水くみ人は2年間ひび割れ壺を使い続けていたのだろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいそうだという思い。 ・花に水をあげて，花を育てたい。 ・ひび割れ壺を生かそうという思い。 ・自分の長所に気付かせたかった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 最後の水くみ人の言葉を聞き，ひび割れ壺はどう思っただろうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・水くみ人は素晴らしい人だ。 ・自分の短所を長所に変えてくれた。 ・ありのままの自分でいいのだ。 ・私の短所があの花を育てていたのか。 ・自分の短所を見つめ直そう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひび割れ壺の気持ち寄り添って考えられるよう，「2年」という時間の長さを捉えさせ，イメージさせる。 ・適宜文章の「恥ずかしい」「すまない」「努力が報われない」「つらい」などの文言を取り上げ，ひび割れ壺の気持ちを捉えさせる。 ・ひび割れ壺が過ごした2年間との対比が見やすくなるよう板書を工夫する。 ・適宜水くみ人が何も言わずにひび割れ壺を使い続けた理由について想像させる。 ・再度，最後の水くみ人の言葉を読むとともに，生徒に対してはひび割れ壺の立場になって聞くように話す。 ・水くみ人の言葉に着目させることで，水くみ人の行動の素晴らしさが，ひび割れ壺の短所を長所と捉えた直した視点であることに気付かせる。
後段 7分	3 自分を振り返って考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 今日の学習で「個性」について考えたこと(考えが変わった，深まった)ことを書こう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・見方を変えれば，短所は長所になるということが分かった。 ・短所をどう生かしていくか考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短所についての捉え方が変化した生徒や，自己を肯定的に捉えようとしている生徒を意図的に指名し発表させる。
終末 3分	4 教師の説話を聞く。		

目指す生徒の姿

- ・ひび割れ壺の悩みや水くみ人の話を考えることを通して，短所について様々な捉え方があることを知り，受け止めようとしていたか。
- ・よりよく生きようとするために，自分の短所や長所を含めた個性について振り返っているか。